

姉妹都市に触れて

訪問団経験者の声

第1回目訪問団 参加者 松川さん

今から30数年前、中学2年生の時に姉妹都市交流の派遣団の一員としてアメリカ・カンザス州 アビリン市を訪問しました。初めての海外ということもあり、不安な気持ちでいっぱいでしたが、パレードやロデオを見たり素晴らしい体験ができました。現在コロナ禍のなか国際交流事業も難しい状況ではありますが、未来ある子どもたちには、海外の人々との交流や異文化との触れ合いという貴重な経験をしてほしいと願っております。



アビリン市 シビックセンターにて
(中央右が松川さん)

ABILENE HISTORY 1880年代

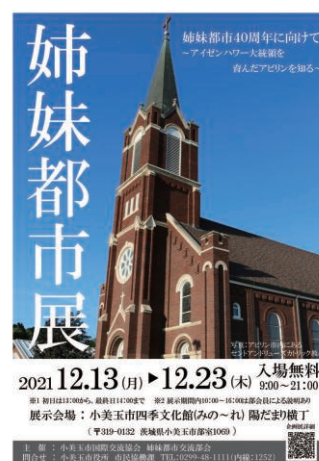
この時代はアビリン市の所属するディッキンソン郡が最も成長と繁栄を見せた時期でした。多くの資産家が当時のフロンティアであったアビリン市に押し寄せました。郡内では自然資源が豊富にあり、その資源を活かした工場が設立され、当時郡内に3つの鉄道路線が走っており、アビリン市は運送の中心地として栄えました。経済的に余裕がある人たちが集まったことから、文化的な同好会などが立ち上がり、多様な考え方が生まれる中、郡では女性による禁酒組合ができるなどアメリカを先駆ける考え方も生まれました。



1880年に建てられた
ラボルド氏の邸宅

姉妹都市展のお知らせ

令和6年に姉妹都市締結から40周年を迎えます。この度その足跡を辿る意味も踏まえアビリン展をみの〜れのひだまり横丁で12月13日から23日の間、開催することになりました。小美玉市から遠く離れたアメリカ合衆国 カンザス州のアビリン市との交流を思い出の品々から感じ取っていただければとても幸せに思います。長い年月をかけて 交流を深く理解し合えたことは感慨深いものがあります。最近の世界を見渡すと、ミャンマーや香港そしてアフガニスタンなどでは民衆の心を力で押さえつける悲しい事が起っております。平和で穏やかに笑顔で暮らせる社会の実現はいつの時代においても難しいと感じざるをえません。平和を考えるといつも遠いカンザスの地で暮らす友の顔が浮かびます。悲惨な戦争の歴史を持つ両国ですが、今こうして友達になれたこと・・・平和な世界の実現に向け小さな小さな交流ですがこの絆がこの先も続く事を願いながらこの展示を企画いたしました。コロナ禍が私たちの生活を一変させました。でも変わる事のない私たちの絆をコロナに負けず育んでいきたいと思っております。お時間のある方は、是非みの〜れに足を運んでいただき遠いアビリンの風を感じてほしいと願っております。



姉妹都市部会 部会長 外之内 登美

国際交流ひろば展～みんなともだち～

令和4年2月4日(金)～2月13日(日) 空のえき そ・ら・らにて開催決定!!
従来の内容を変更し展示方式で開催します。ただいま準備中

【問い合わせ】 小美玉市国際交流協会事務局 市民協働課 TEL: 0299-48-1111 FAX: 0299-48-1199
(※)取材は感染対策を徹底した上で実施し、撮影時のみマスクをはずしております。

小美玉市 国際交流通信

Omitama International Report

Vol.18
2021.11.25

- 中国語スピーチコンテスト出場 1
- 世界とつながる小美玉の企業 2
- 調べてみた!小美玉でくらす外国人 3
- 世界とつながる小美玉の「人」 4
- コラム 教えて!あなたの国 5
- 姉妹都市に触れて 6
- 姉妹都市展のお知らせ 7



小美玉から世界とつながる

▲左から、中央高校 櫻井先生、吉岡さん、木村さん、中国語講師 段先生

外国人と小美玉市民をつなぐ 広報紙

10月24日、全日本中国語スピーチコンテスト茨城県大会が水戸市で開催され、中央高校から木村さん、吉岡さんが事前審査を勝ち抜き出場しました。中国語学習の面白さを木村さんは「声調があって発音が難しい」、吉岡さんは「同じ漢字でも意味が違う。『走』という字は中国語では歩くという意味なんです」と話してくれました。茨城県日中友好協会の森顧問は「中国語学習を選択することを躊躇してしまう現状ですが、国の問題を越えてことばを通して民間同士が交流することが大切」と出場者にエールを送りました。





私は「原料の品質」というテーマで行きました。実際に南イタリアのトマト畑から、日本に送る前のトマトの品質をすべて確認しました。

Q：イタリアと日本の仕事のスタイルは違いますか？

A：日本人から細かい点を指摘されることに、イタリア人もプライドがあるのでつかることもあります。でも、それは私も機械メンテナンスのプロ意識を持って行っている、自分の意見ははっきり伝えるようにしました。イタリアでははっきり伝える方が、真摯（しんし）に向き合っていると評価されました。

Q：これから世界を目指す人にメッセージを。

A：とりあえず、「恐れずに」チャンスがあったら行って見るべき！です。日本の常識がイタリアでは通用しないことも分かりましたし、自分の言いたいことだけ主張しても伝わらない。コミュニケーションの大切さにも気付きました。

世界とつながる小美玉の企業

—おいしいトマト製品を作りたい想いは同じ—

イタリアに行き、現地の畑から加工までトマトの品質管理に関わったカゴメ株式会社 茨城工場のお二人にお聞きしました。

Q：大変だったことは何ですか。

A：機械チェックの過程でイタリア人技師の主張に納得できないとき、何度も交渉して設備異常を発見したことがありました。そこでやっと相手も私のことを認めてくれて信頼関係が築けました。イタリアに行ったことで品質の重要性和設備を見る意識が上がりました。

Q：イタリアでの経験で得たことは何ですか？

A：私は初めての海外でしたが、育った環境、文化の違う人と意見を交わすことは刺激的で新鮮でした。伝えたい気持ちさえあれば、少しの単語とジェスチャーで伝わります。同じ人間ですから。



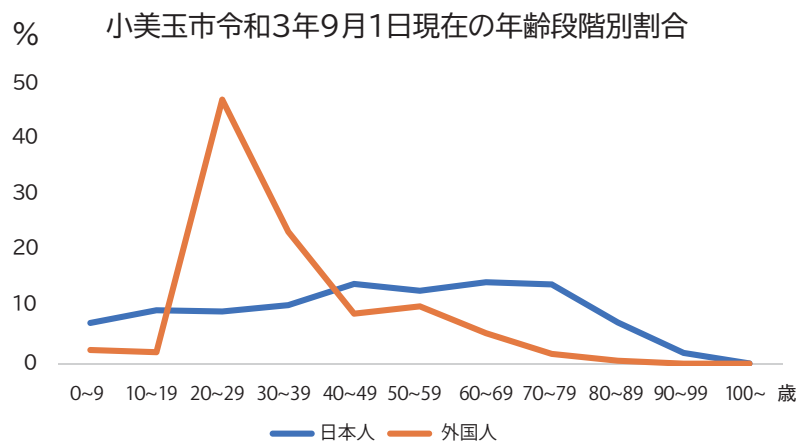
小澤さん

私は2019年に「異物混入を防ぐ」ことをテーマに行きました。自分の意見を伝える中でもジョークを忘れず、何ごとにも楽しむイタリア人から学ぶことが多くありました。



◀現地の方と作業している小澤さん

調べてみた！ 小美玉でくらす外国人



小美玉市役所 市民課 『住民基本台帳に基づく年齢段階別人口』（令和3年度）より協会が作成

小美玉市に暮らす外国人が増えています。2021年には過去最高の1,675人となりました。小美玉市の外国人の特徴は農業、畜産業、工場などで働く外国人が多いことです。若い人の少ない小美玉市では、小美玉市で働く外国人は貴重な人材です。日本人だけの労働力だけでは成り立たない状況かもしれません。仕事のために小美玉市に来た外国人にも、「小美玉はいいトコロ！」そう思ってもらえるように地域づくりと一緒に考えていきたいと思っています。

世界とつながる小美玉の「人」

日立建機欧州支店に初代支配人としてオランダに13年滞在。その後、ドイツ、イギリス、アメリカに3年ずつ滞在。海外在住経験の豊富な岡島さんにお聞きしました。



岡島さん

Q：海外に出て感じたこと、気付いたことを教えてください。

A：海外に出ると逆に日本のことがよくわかります。外国の人は日本のことを知りたいので、いろいろ質問されました。自分の国について何でもよく勉強する事が大切です。そして、相手の国の言葉を覚えることも大切です。



Q：海外経験で得たことは何ですか。

A：宗教や文化の違いを理解できないと、相手のことを理解できません。約束を守り、誠実にお付き合いすることは日本でも外国でも同じように大切です。外国で得た友人は生涯の宝物になります。言葉ができなくても、手紙をもらったら返事を書くこと、パーティなどに参加することで関係を深めることができました。

Q：これから世界を目指す人にメッセージを。

A：私は1986年からアメリカ・アビリン市との姉妹都市交流に関わっています。国際交流は聖徳太子の時代からありましたが、今はお互いの違いをよく知ることで平和な社会を作るために行われています。政治家では本当の交流はできません。一般の、それも若い人たちが中心になって世界の人たちと交流することが平和への第一歩だと思います。

コラム おしえて！あなたの国

小美玉市在住のガーナ共和国出身のプリンスさんにインタビューしました。現在は、食品加工の工場で働いています。



プリンスさん



▲収穫したカカオ



▲プリンスさんのご家族 収穫したカカオの前で



▲ガーナの織物「ケンテ」を着たプリンスさんの母

Q：ガーナはどこにありますか？天気はどうか？

A：西アフリカにあって、赤道に近い国です。雨季と乾季があります。日本の夏の方がガーナよりずっと暑いですが、四季があっていいですね。

Q：ガーナではどんな言葉を使いますか？

A：公用語は英語です。トウイ語などの言語も話されています。

Q：ガーナの主な産業は？

A：カカオと金が主要産業です。木材や石油、アルミニウムの原料となるボーキサイトも産出しています。チョコレートの原料となるカカオ豆の世界2位の生産国です。日本のチョコレートの原料のカカオ豆は70%ガーナから輸入されています。私の父も農園でカカオを育てています。

Q：日本はどうか？

A：日本はとても平和な国だと思います。日本のすぐれた技術、特に日本の鉄道の素晴らしさに驚いています。先日、出勤途中に財布を落としました。数日後、交番に届いていて感動しました。



▲熟したカカオを収穫する叔父